

第16回 定例ワールドカフェ (2/18) 感想 (2023.3.6 現在)

話題提供：専門家が親になる時の支援を考えるー最初はみんな親1年生ー

提供者：大久保倫世 (泉州看護専門学校専任教員 助産師)

当日参加者：12名

感想 (Google Form) 回答者：7名 (分野_教育2名、医療5名)

- ・自分たちの反省点をプラスに変えようとされる。そんなこの会が大好きです。
- ・今日のお話ありがとうございました。若き頃の体験も踏まえて、振り返る機会となりました。自分自身も専門職なので、できて当たり前、でも実際はできない自分を目の当たりにして、戸惑った記憶を思い出しました。専門職だから、経験者だからと支援が得られる機会を、本来支援すべき側が奪っているのかもしれない。また、できて当たり前と周囲から見られるであろう環境こそが、様々な問題を生んでいるのでは、と改めて考えさせられました。「ねばならない」は本当に自分も相手もがんじがらめにしてしまう鎖のような言葉ですね。ありがとうございました。
- ・あるあるの話がたくさん聞けて、面白かったです。職業を隠していても、こちらからもしかしてそうですか？と聞いた時に全否定する方には会ったことがないです。案外、対象者も自分の職業を明かしたいけど・・・という思いがあるんじゃないかな？と思います。
- ・本日はありがとうございました。現在は、病院勤務を経て、地域で訪問をしております。私自身病院勤務をしていた時は、職業を聞いたら、(自己申告でも、話の流れで知ったとしても)その方がどう思っているのか、今の状況をどう感じているのか、理解しているから教えてほしいことだけ教えてのスタンスなのか、素人と同じように接してほしいのかを聞くように心がけていました。地域に出るからは、接した方から家族から子どもの事はあなただったら大丈夫よね。(医療者、子ども関係のお仕事、元々しっかりしている長女さんなど家族の中の立ち位置)と言われることが多く、医療者からの解っているよねという言葉より、身近な支えてもらえる家族に心のしんどさを解ってもらえなかったことが一番しんどかったと聞くことが多いです。どんなに家族の関係性が良くても私不安やねん、わからんねん。は言えないんだなと感じる場面が多々ありました。どのような方も困っていること、不安に感じていることなど話しやすいように、例えば経産婦さんは比較対象があって、視野が広い分1人目より不安になったり疑問に思ったりすることが多くなるからと視野が広いなどプラスに取れる言い方で接するようにしています。今日のお話の中であるよねと思っていたけど、実際にデータとしては目にしていないので、今感じていることが実際にどうなのか、データとして見ることが出来れば本当に面白いなと感じました。改めて、このようにテーマを投げ掛けていただいて、考えてみるって大切な時間だなと感じました。ありがとうございました。
- ・自身の出産時にも、職種を明かしていたがために、「相談しにくい」「陣痛辛いけど、ナースコールは押さない」「支援してもらえない」経験をしました。支援者としては、自分の

経験も踏まえて、専門職であるからこそその不安があるはずという姿勢で関わるように気をつけています。専門職者という鎧？プライド？支援者への配慮？のために、孤独や不安にさいなまれたり、我慢している女性が多いのかもしれないと、気付かされました。貴重な話題提供ありがとうございました。

- ・ 出産時よりも、子どもの成長に伴い、保育園、小学校で、担任の先生やママ友に仕事のことなどをどう伝えるといいのか、子どもの今度のことを考えると悩むことが多かったので、グループワークで、いろいろなご意見をお聞きして、自分自身にとっていい機会になって、いろいろ共感ができることが多かったです。
- ・ 先入観をなくして…、頭ではわかっているつもりでも、看護師さん、若い人など、グループ分けしてその集団の特徴と思いついているイメージや価値をあてはめてしまう習性はなかなか抜けません。子育てに関わる専門家自身の内面にある、またその集団に向ける社会のバイアスを意識して、悪影響を与えない方策を考えていきたいですね。多職種連携のこの会だからこそ共有できたテーマだと思いました。ありがとうございました。是非、実態調査したいですね。